台所から北京が見える

長澤信子

長 澤 信 子

昭和8年，東京に生まれる。日本女子大学付属高校卒業，学芸大学入学後，半年で中退。東京セクレタリースクールを経てサッポロビール(株)に入社。2年後結婚のため退職。44年から大阪語文学院，大阪華語学院にて中国語を学び，48年，中国語通訳ガイド資格取得につづき，准看護婦資格取得。56年，和光大学中国文学科卒業。現在，中国語通訳。(株)ヴィーブル中国室嘱託。

台所から北京が見える　　定価　980円

昭和58年12月15日　第1刷発行

著　者　長 澤 信 子

発行者　椎 橋　　久

印刷所　真生印刷株式会社

発行所　株式会社 東京ジャーナルセンター

東京都新宿区新小川町9—25
日 商 ビ ル 3 F　(〒 162)
電話　東京 03(235)2801(代)
振替口座　東京 2—87851

Printed in Japan　ISBN 4-88643-007-4
©1983年
落丁・乱丁はおとりかえいたします。

36歳から始めた
私の中国語

台所から北京が見える

長澤信子

東京ジャーナルセンター

はじめに

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

郵便受けの中にエアメールの封筒を見つけると、私はわくわくして手を伸ばします。すばやく取り出してみて、一瞬がっかり……、それはほとんど中国人からの便りだからです。

もちろん、海を越えた友人からの便りは、どれもうれしいものにちがいありません。封を切れば、〝親愛的阿姨〟（親愛なるおばさま）とか〝信子〟という書き出しで、私に親しく語りかけてくれ、旅先での彼女たちとの出会いが、鮮明によみがえってきます。

でも、それをくりかえし読み終わったあと、いつもきまって頭をかすめるのは、アイルランドにいる次男のことです。

子育ての期間は長いようで短いものです。

病気をしたり、けがをしたり、浪人したり、留年したりして、そのたびにわが家に旋風を巻き起こした二人の息子は、もうそれぞれの道に巣立ってしまいました。ほんの一年前のことです。私はかねてから願っていたように、ほほえんで明るく彼らの旅立ちを祝うことができました。

男の子の淡々とした親離れは、まえから予想されたことですが、正直なところ、さわやかな子離れができた私の心のゆとりに、自分自身が驚いています。

子育てに手いっぱいだった若いころ、私の恐れていたことは、子育ての終わったあとの自分の姿でした。

子どもが私を本当に必要とするのは、長くとも十数年ぐらいのもの。そのあとの何十年と続くかもしれない歳月を、いったいどうやってすごしていったらいいのだろうか。

子どもが成長するにつれて生まれてくる自由な時間、その空間をうめるように自分自身が〝なにか〟を持たなければ、いまにきっと寂しくてたまらなくなるにちがいない……と。

子どもかわいさのあまり、ともすれば手をさしのべて〈わが子＝自分〉としたい気持に襲われるたびに、私は（待て）と、自分の心にブレーキをかけてきました。子どもがかわいければかわいいほど、子ども以外のことに目を向けるようにつとめました。

私を中国語へ駆りたてた原動力は、そこにあったのです。

この本を読んでくださった方が、もし、文中から私の情熱なるものを感じてくださるとしたら、むしろ、その情熱を子育てのみに向けないようにした私の心情をくみとってほしいと思います。

思いきって具体的に行動を起こしてから、私の生活はだんだん変わっていきました。そこからは、子どもの親としてではなく、夫の関係とも別な、自分自身の世界がひろがってゆくのがわかります。

それは、外国語というまったく未知のものが、私に与えてくれた思いもよらぬプレゼントといえるのではないでしょうか。

日本と中国の関係が、私が思っていたよりずっと早く、私の勉強と同時進行の形で好転していったことも、このうえない幸運でした。いま私は、通訳・ガイドとして、一年に七、八回は中国へ出かけていきます。

そして、わが家では、また夫婦二人の静かな生活がはじまりました。けれども、つとめてある距離をおいて子どもに接していたため

か、若いころ恐れていたような寂しさを感じることはありません。

かつては家族の声でにぎわっていた台所に、いま一人立てば、あこがれの地であった北京の町並みが鮮やかに浮かび、私をまた新しい世界へと誘ってくれるからです。

でも、その風景の中に、いつも息子の姿が見え隠れするのです。

明日はあの子から元気な便りがとどくかしら……

一九八三年一一月　　長澤信子

目次

はじめに

ある旅立ち——15

"赤い帽子" シルクロードを行く 17

出発は一週間後 17

歴史とロマンを秘めた中国の旅 21

いま、ウルムチ、トルファンへ 24

陽関を出づれば故人なからん 30

三十六歳からの中国語——35

中国語との出会い 37

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

子どもこそ生きがい　37
子育てが終わったあとの不安　43
人生相談への投書が私を変えた　47
夢はひとまず胸の中へ　53
（夫のつぶやき）①　長澤　猛　56

中国語学校時代　59

夫の転勤をきっかけに入学　59
たちまち落ちこぼれる　62
人生に終わりなき宴（うたげ）なし　67
息子と愛犬ジェスパ　71
テキストはいつも二冊ずつ　74
大阪華語学院で武者修行　76
成語の魅力を教わる　79
高先生のこと　82
（夫のつぶやき）②　87

昼は病院、夜は中国語学校　89
学費は自分で稼ぎたい　89
そうだ、看護婦の資格を取ろう　94
プロの早技をまのあたりに　96
二十四個の丸印が消えれば卒業だ　100
四年目に通訳ガイドの試験にパス　102
看護婦として二歩前進　109
中国語を通して広がる私の世界　113
〝四十雀の集い〟誕生　113
通訳初仕事は晴れの一番機　119
針麻酔視察であこがれの中国へ　125
脳腫瘍の手術も針麻酔で　128
（夫のつぶやき）③　136
中国語は生活の一部に　140

ふたたび東京へ　140
母の老いとその死　145
親子そろって大学生　152
よくシコシコ学校へ行くね　157
ライフワークは『紅楼夢』　160
（夫のつぶやき）④　165

中国を往復する喜び　168
中国への熱いまなざし　168
いま、私自身の旅立ち　172

私なりの中国語学習法　175
中国語をはじめるまえに　177
テープと字引の徹底的活用　180
朗読の練習はマッチ棒で　186

カードはこうして使う　190
話せるようになりたい　197

中国を行く——201

歴史の重みを語る北京　203
いま、夢にみた万里の長城に立つ　203
明(みん)の十三陵のなぞにひかれて　207
蘇州・杭州の湖水めぐり　212
水の都、蘇州の名庭園　212
中国式ショッピング情報　215
船遊びで高まる西湖詩情　219
羊とラクダの内蒙古　222

大草原の中の包(パオ)に泊まる　222
蒙古人の、のびのび人生　227
流行は上海から　231
ところ変われば味変わる　231
夏の夜のコオロギ賭博(とばく)の話　236
当世、上海若者気質　239
豪華船で巡る新しい旅　243
あとがき　251
長澤さんとのおつき合い　金森トシエ　254

装幀　小松久子

ある旅立ち

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com